

が我らの帰還船である。

舞鶴港が見えた時は、泣きながら我慢して四年、帰れたのだと嬉しさは隠し切れなかった。舞鶴港に着くと、我らは乗船中の待遇が悪かったの上陸拒否したので、後から来た船の方が先に上陸する。明優丸の者が上陸する時は棧橋を警察官が一列に並んでのお迎えであった。二日ほど検査や帰還の手続きで、終了後、帰還列車に乗ると新宿まで父親と義弟が迎えに来ていた。自分は代々木駅で下車、共産党本部に行くと言ったが、父親と義弟の二人に押さえつけられ下車する事が出来なかった。

水戸、上菅谷駅では帰還兵に日の丸の旗を振って迎えてくれた。常陸太田駅に着くと家族、区内の皆様が御苦勞様でしたとお迎えに。また駐在所の巡査にまで御苦勞様でしたと言って軽トラにて送られる。

昭和二十四年八月十三日、五年振りに故郷に帰る。懐かしい故郷をしみじみと想う。

戦後の還暦に思う

富山県 窪谷 好信

激動の昭和は今や遠くに去らんとしています。幸いに生きながらえ、終戦から六十年目を迎えて先ず思い出すことは、シベリア抑留の苦難であります。

私は昭和十五（一九四〇）年徴集兵で第一乙種でしたが、現役兵として、十六年二月、敦賀歩兵第一百十九連隊（中部第三十六部隊）に入営しました。旬日後に七尾港より渡満し、穆稜歩兵第十九連隊（満州第八〇二部隊）に到着いたしました。東部ソ満国境地帯にて警備の任に就き、昭和二十年六月、吉林省敦化第十六野戦兵器廠（満州第九三〇〇部隊）に転属となり、ほど無く、天皇の詔勅を拝し終戦を知りました。

戦わずして武装解除を受けてソ連軍の配下に入

る。沙河沿飛行場で野営数日にして、貨物列車に詰め込まれ強制連行される。満州里よりシベリア入りし、タイシエツト地区バム鉄道建設地点七十キロメートル、荒野の第十一收容所に約千人と共に抑留され、幕舎生活の身となりました。

抑留者はバム鉄道（第二シベリア鉄道）の建設作業であり、シベリアの三大苦難（極寒、飢餓、労働）の連日でありました。作業は鉄道建設に関わるすべての労役にかり出されました。二十二年二月ついに栄養失調となり、キビトック第三三七〇病院に入院し、五カ月間、医療の設備も無く、ただただ療養することになりました。

九死に一生を得て病弱兵（オーカ）として帰国が許され、ナホトカ港にて新興丸に乗船し、夢に見た祖国に上陸して、二十二年十一月一日帰宅することができました。軍務服役期間六年八月余、（陸軍主計曹長）青春期を戦争に捧げてまいりました。

帰国後は北陸配電株式会社に復職し、五十二年二月停年退職となり、今日に及んでいます。

その間、平成元年に平和・親善・追悼の墓参団員として、沿海州地方を訪れました。次いで四年、はるけきシベリア遺族と共に十六人の団長となり、抑留者思い出のタイシエツト地区の墓参が出来ました。二度と行けないと思っていた墓地を巡回供養し、戦友を追悼したことは、この上無い喜びでありました。

深緑異国の丘の墓参かな

緑樹陰万感無量手を合わず

ひときわに墓前夏菊白かりき

草茂み遺族涙を新たにす

りんどうを手折り供える無名墓

痛恨の屍静かに夏木立

原生の花園が続く初夏の旅

はるばると秋立つ大地墓参かな

終戦の還暦に当たり、敗戦の残酷・悲劇・屈辱・惨めさの体験者として、二度と戦争を起ささない、また風化させてはならないと強調するものであります。

【執筆者の紹介】

大正九年二月十七日 富山県西砺波郡西五位村土屋に生まれる

昭和十三年三月 富山県立高岡商業学校卒業

昭和十六年二月十日 敦賀歩兵第百十九連隊に入営

昭和二十年八月 敦化第十六野戦兵器廠で終戦

昭和二十年十月 シベリア、タイシエツト抑留

昭和二十二年十一月 復員し、北陸配電会社に復職

昭和五十年二月 北陸電力会社を停年退職

平成元年七月 訪ソ墓参 沿海州地方

平成四年八月 訪ソ墓参 タイシエツト地方

平成十七年三月 富山県慰霊碑建立実行委員

(富山県 山田 秀三)

抑留記

福井県 岩本 栄 一

はじめに

もう帰国してから六十年もたちますので忘れた事ばかりで申訳ありませんが、記憶している事を綴ってみました。お許し願います。

昭和十九(二九四四)年一月十九日入隊

広島のある学校で身体検査を受けて即日帰郷でない者は武装一式をもらい、夜行列車で出発した。検査に合格しない者は我が故里へ帰って行った。

非常の事故、夜広島から船に乗って釜山港に着いた。酷寒の零下二五度の風雪の中を汽車は佳木斯に着いた。富錦まで二百キロの所を今度はトラックに乗り、顔の眉毛や髭に霜が付き白く凍って、素手で手すりや飯盒を持つと飯盒の持ち手が凍って手にひっついてくる。

入隊は満州六一三部隊野砲隊で、ソ連との国境